令和３年度　第２回　温海地域振興懇談会　会議録概要

○期　　日	令和４年３月１５日（火）　午前１０時～午前１１時５５分
○会　　場	鶴岡市温海庁舎　６階大会議室
○出席者	五十嵐伊都夫会長、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、若松邦彦委員、 伊藤美代委員、片岡正孝委員、佐藤美代子委員、齋藤武大委員、 佐藤俊介委員、今野久良委員、柴田千尋委員、（１１名）
欠席者	五十嵐正直副会長、佐藤昌幸委員、齋藤彦一委員、野尻晶委員（４名）
市側出席者	【温海庁舎】 粕谷支所長、齋藤総務企画課長、加藤市民福祉課長、伊藤産業建設課長、 佐藤地域まちづくり企画調整主査、今野主事、菅原主事 【本所企画部】 政策企画課 佐藤（紘）専門員、地域振興課 飯野主査
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	０名
○次　　第	１．開　　会 ２．あいさつ ３．報　　告 ４．意見交換等 （１）鶴岡市国土利用計画（第二次）について　資料１、１－２ （２）地域まちづくり未来事業の進捗及び次年度の計画について　資料２、３ （３）その他 ①新道の駅あつみ移転整備事業について　資料４ ５．閉　　会
○委員発言の概要 **３．報　　告**	※報告事項なし
４．意見交換等	**（１）鶴岡市国土利用計画（第二次）について**
会長	・国土利用については、時代の変化に対応していかなければならないが、次の

	３点について対応出来ておらず問題が生じている。１点目は、空き家のままにしている方が、更地に比べ固定資産税が安いということで、建物が解体されないままになっている状況がある。２点目は、農地法について時代に適応しているのか。農地を一定以上持っていないと農地を購入できない。３点目は、山林の共有名義で、所有者が変わっても登記がそのままになっている。山林の金銭的価値が低くなっており、相続登記が未了になっている。問題を整理し対応していかなければ、空き家の増加、農地や山林の荒廃が進むと危惧している。
政策企画課佐藤専門員	・鶴岡市国土利用計画（第二次）は、大まかな指針であり、計画には、空き家、農地の遊休化、森林の機能低下等を現状の課題として盛り込み、空き家の管理や自然環境の保全に努めるなど大まかなことは記載している。具体的な取組については、それぞれの計画に沿って取り組むこととなる。
会長	・固定資産税について、空き家と更地にした場合とどのくらい金額が違うのか。空き家としておいた方が、税金が安いとなると、空き家問題は解決されないと思う。
Ｊ委員	・山形県沖地震の際、津波を恐れ避難場所に車で避難する人が多かった。高台に避難場所を整備する計画はあるのか。
政策企画課佐藤専門員	・鶴岡市国土利用計画（第二次）については、市全体の方針として大まかなことを記載している。具体的なハザードマップの作成や配布、避難経路などの防災に関しては、個別の計画において進められるもの。
齋藤総務企画課長	・災害に応じて、地域防災計画において避難場所を指定している。災害は土砂災害、河川の洪水、津波があり、避難場所については、災害の要因により、集落ごとに定められている。海岸の１０集落については、津波の場合には高台に避難するということで、お寺や神社を避難場所としていると思う。新たな避難場所の整備については、温海地域は、地形的に限られていることから難しく、既存の場所での高台を避難場所として指定している。
Ｊ委員	・宿泊客の避難場所については想定されているか。
齋藤総務企画課長	・山形県沖地震の際、宿泊客も熊野神社付近に避難したと聞いている。温海温泉自体は、津波の場合の避難場所の指定がなく、土砂災害、洪水の場合は、温海温泉林業センターが避難場所となっている。強固の建物へ避難する垂直避難も考えられる。

４．意見交換等	**（２）地域まちづくり未来事業の進捗及び次年度の計画について**
会長	・地域おこし協力隊は、教育と観光に２名採用し、１名は温海地域生涯学習振興会、もう１名は観光協会へ配置するということでよろしいか。NPO 法人自然体験温海コーディネットも１名増員ということは、計３名採用するのか。
齋藤総務企画課長	・地域おこし協力隊の任用については、直接任用と委託の二通りの方法がある。これまでは、市が直接雇用していたが、隊員がより活動しやすいように委託先が雇用する形とした。教育分野に関しては、温海生涯学習振興会へ委託し任用して参りたいと考えている。
Ｅ委員	・地域まちづくり未来事業について、多くの事業を行っており、事業内容については、市広報等でお知らせしていると思うが PR 不足ではないか。福栄地区で養蚕の取組をしていることを知らなかった。市広報以外でも、市民へ周知することで、地域の方々からもっと協力を得られるのではないか。 ・地域おこし協力隊について、募集から採用までの流れを教えていただきたい。 ・様々な地域の「道の駅」に寄ると、産直があり、その土地の食べものや特産物を知ることができ楽しめる。また、地元の新鮮な野菜が安く買えると賑わう。新たに作る道の駅には、大きな産直を作り、市民も地元の新鮮なものを安く買えるようにし、賑わいがある充実した施設としてほしい。
総務企画課長	・地域まちづくり未来事業の周知について、市全体では市広報の予算特集号や決算特集号で一部を紹介しているが、事業の内容を周知仕切れていないのは事実である。ご指摘の養蚕事業については広報等でも周知出来ていなかった。今後は、報道機関の協力を得ながら、また、様々な機会を捉えて事業の情報発信に努めていく。 ・地域おこし協力隊の募集については、市議会３月定例会において予算可決後に募集をする予定で要項を精査しているところ。募集要項には、温海地域がどんなところか、地域の状況、協力隊の任務や任用条件を掲載し募集する予定。全国的に優れた人材確保が難しいなか、温海地域を選んでいただけるように募集要項を作成したい。申込終了後に面接し適任の方を採用するという流れとなる。
伊藤産業建設課長	・地域おこし協力隊の募集については、市のホームページの他、様々なサイトを利用し全国へ広く募集を呼びかける予定。応募の際に、自分の活動の目標、抱負、自分の特技などをレポートにまとめたものを提出してもらい、第一次審査として書類審査を行う。その後、二次審査として面接し決定という流れになると思う。

	・新道の駅の産直施設について、令和４・５年度あたりに運営事業者を選定する予定である。最終的には、運営事業者が、産直の規模をどのくらいにするか詰めていくことになるが、施設の充実を図り、温海地域の方々が稼ぐ仕組みを作っていきたいと考えている。 ・来年度配置の地域おこし協力隊の任用は２名であり、NPO 法人自然体験温海コーディネットの１名増員については、地域おこし協力隊とは別であることをご承知おき願いたい。
粕谷支所長	・地域まちづくり未来事業の周知については、地域振興懇談会や自治会長が集まる場では説明させていただいていたが、他の方々への周知が不足だった。コロナ禍という影響もあるが、市民の皆さんと話し合う場が持てていなかったと反省している。積極的に地域へ出向き、事業の説明をさせていただく必要があると改めて感じた。 ・地域おこし協力隊の募集については、説明があったとおり、市のホームページの他、様々な募集サイトへ登録し全国的に募集するが、それだけでは、なかなか応募がないと思われる。ふるさと温海会などの在京の出身者に情報提供し、紹介をいただくなども考えている。他の事例を見ると、地域おこし協力隊の制度を使ってＵターンしている方もいる。制度の活用は可能なので、 Ｕターンするタイミングを見計らっているような方、適任者がいたら、ぜひ情報を寄せていただきたい。募集については、自治会を通じてＰＲを図っていきたいと考えている。
Ｅ委員	・ 農業新聞に地域おこし協力隊の活動紹介が掲載されている。狩猟免許を取り、農作物を荒らすシカやイノシシ等を駆除し、その肉をジビエとして販売するなど活動を展開している。 地域おこし協力隊は、ぜひ情熱のある人を選んでほしい
Ｃ委員	・ あつみ体験旅行推進事業について、令和４年度の計画に「温海地域が SDGｓ教育旅行の受け皿（聖地）となるように」と記載があり、体験旅行と SDGｓを組み合わるということのようだが、SDGｓの 17 の目標のうち、何番の目標と関連づけるのか。
伊藤産業建設課長	・ SDGｓの目標の何番と関連付けるのか限定的なものでなく、現在やっている体験メニューにもう一工夫して SDGｓを体感できるようにすると伺っている。
Ｃ委員	・ SDGｓの 17 の目標は、それぞれが違う。「 SDGｓを体感」と言われても意味がわからない。 SDGｓ教育旅行の受け皿、聖地というとものすごく範囲が広

	くなる。教育旅行の体験の内容が SDGｓの目標の何番と関連しているのか、明確にしていく必要があるのではないか。12 番のつくる責任・つかう責任と 14 番の海の豊かさを守ろうが非常に関連があると思う。目標の理解と関連付けを明確にして旅行代理店へ企画を出された方がよい。
伊藤産業建設課長	・頂いたご意見については、NPO 法人自然体験温海コーディネットと共有していく。
G委員	・温海公園（ばら園）整備事業については、地域まちづくり未来事業から市全体の公園整備に位置づけ整備されること有難い。経年劣化が進んで危険な状況となってから 7～8 年経過しているので、早急に整備してほしい。温海庁舎、本所担当課からも令和 4 年度は実施設計、令和 5～6 年度に工事と確認している。スピード感を持ってやっていただきたい。 ・温海公園は、6 月のあつみ温泉ばら園祭りに多くの方から来ていただいている。昨年は、アイスのバラがツイッターで 22 万のイイネをいただくことができ、その追い風もあり、あつみ温泉へ多くのお客様が訪れ、ばら園を楽しまれていた。多くの方から来ていただくことは嬉しいが、車の受け入れが課題となっている。 ・ばら祭りは、30 年前は、６月２週目に一発イベントとして、花笠踊りやカラオケ大会などを行ってきたが、現在は、1 か月の期間を設け、あつみ温泉の集客に取り組んでいる。あつみ観光協会の会長が「ばら園を活用したあつみ温泉の活性化」を提唱され、ようやく形が見えてきたところ。鶴岡公園も時代に合わせ、キッチンカーが入れるようにしたり、周辺の道路整備など公園と一体に整備しているようである。あつみ温泉とともに「ばら園」の賑わいづくりを皆で考えていきたい。
F委員	・ 観光地として、それぞれの家の前にもバラを植えて、あつみ温泉全体がバラの香りに包まれるような雰囲気になるとよい。公園まで足を運ぶことが出来ない方もいるので、温泉全体がお客さまを迎えるような雰囲気になるとよい。また、トイレは、きれいで使いやすい充実した施設を望む。 ・ICT を活用した健康教室は、引き続き行っていただきたい。コロナ感染者が減少していない状況であり、注意喚起を引き続き行ってほしい。また、市のどの地域から感染者が出ているのか、感染拡大を防ぐためにも情報提供いただけると有難い。
粕谷支所長	・注意喚起については、 まん延防止などのタイミングでは行っていたが、コロナ感染者の数が高止まりの状況であるので、その方法について検討しなければならない。感染者の地域については、 その地域に対する偏見も生まれやす

	いので開示できないことをご了解いただきたい。個々が引き続き、換気をする等、感染防止に努めていただくことをお願いしたい。
Ｉ委員	・ 産業振興については、よそから企業を連れて来ないと地元の発展は難しいと考える。あつみ温泉インターチェンジ付近に企業誘致をお願いしたい。働く場があると定住につながると思う。 ・ 地域おこし協力隊が定住出来なかった理由を教えてほしい。 ・ 資料中№10 の杉葉マッチングについて教えてほしい。焼き畑の火入れの際に、杉葉を利用するということか。
粕谷支所長	・委員から温海インターチェンジ付近に工業団地をと以前からご意見をいただいており、本来であれば検討すると言いたいところだが、工業団地を造成する場合、事前に入る企業があるかリサーチをし、ある程度目途が立たないと着手できない。市としては、あつみ温泉インターチェンジとは別の場所に工業団地の計画があり、そちらを優先してやる予定。現在、あつみ温泉インターチェンジ周辺への工業団地の造成計画はないが、 新たなバイオベンチャー関係の研究施設の増設など市全体で企業誘致を進めていることをご理解いただきたい。
齋藤総務企画課長	・ 地域おこし協力隊の定住については、平成 27 年度から当初３名入り、これまで延べ ６名が温海地域へ従事し、 現在３名が市内に定住している。退任された理由としては、他の仕事に就くためや進学のため、体調面で任期途中に退任している。
伊藤産業建設課長	・ 温海かぶの焼畑をする際に杉葉を利用して焼くとよいと言われている。温海町森林組合で伐採した際に出た杉葉を一本木スキー場に集めて、誰でも利用できるようにした。
Ｉ委員	・焼き畑の火入れの際に、杉葉を利用すると収量が上がるのか
伊藤産業建設課長	・極端に収量が上がるかは不明だが、焼き畑のベテランの方々から焼き畑の火入れの際に、杉葉を使用するとよいと聞いている。
４．意見交換等	**（３）その他**
説明： 伊藤産業建設課長	**① 新道の駅あつみ移転整備事業について** ・質問・意見なし。